「癌」と「がん」、皆さんは意識的に書き分けていますか？

文字やイラストで何かを説明しようとすると、
何故だかとても難しい。
編集の仕事の中でも、そんな瞬間がよくあります。
　患者さん向けの本はできるだけやさしい解説を。
　医療関係者向けの本は正確で簡潔な説明を。
　研究者向けの本には科学的な知見を詳細に。
様々な対象に向けてどんな表現をすれば
うまく内容が伝わるのか。
実際の出版物やイラストと共に様々な例を紹介します。

実験医学　編集人
一戸敦子

”癌”それとも”がん”？
～医学書をつくるときに悩むこと、考えること

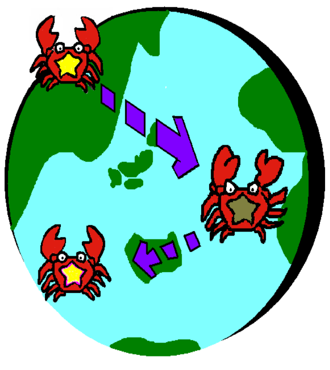
第６回腫瘍病理セミナー

北陸がんプロ FD 講演会

どう伝え、どう語る？
- がん -

（株）ライフテクノロジー
サイエンスコミュニケーター
橋本裕子

がんを語り合うには？
～サイエンスコミュニケーションの立場から



　がんに対する分子標的医薬品の開発や個人化医療の推進など、
先端科学の知識や技術が瞬く間に医療現場で活用される時代を
迎えています。それに対して、患者自身が治療法の選択や個人情報の
管理、インフォームドコンセントと向き合う必要がでてきます。
　医療技術を理解するために、その基礎となる先端科学をどのように
伝えるのか。
　専門家と一般市民が語り合う「サイエンスカフェ」等を例に
紹介します。

日時：１月 28 日（月）　16 時半から
金沢医科大学病院　本館４階　C41 講義室

病理学 I 清川　kiyokawa@kanazawa-med.ac.jp　内線　3611